

## 「手ぶくろを買いに」の中国における受容

張燁萌

### 1 新美南吉の中国における受容の概況

新美南吉の日記によると、「手ぶくろを買いに」は1933年、南吉が20歳の時に書いた作品である。南吉の死の直後（1943年）に刊行された童話集『牛のつないだ樁の木』に収録されている。

冬が来て、子狐の手が寒くて痛くなるというところから物語りは始まり、母さん狐が子狐の片手を人間の手に変え、一人で町に手袋を買いに行かせることにする。子狐は町の帽子屋で間違って狐の手の方を出すのが、人間が狐を捕まずに手袋を売ってくれる。そのことを無事に帰って来た子狐が母さん狐に話し、母さん狐が「ほんとうに人間はいいものかしら」と呟くというところで、作品が終わる。

本作品は1954年から日本の小学校国語教科書に掲載され、2002年（全ての教科書から消えた年）を除いて、現在まで約54年間日本の子どもたちに読まれ続け、国民的童話といえるほどの作品となっている。またこの作品をテキストとして、数多くの絵本作家たちが創作し、本屋に行くと必ず置いてあると言っていいほど、人気のある作品である。

しかし、小川未明、宮沢賢治のような早くから中国語翻訳があった作家と異なり、新美南吉の名作が中国に盛んに紹介されるようになったのは2000年以降のことである。新美南吉の中国での出版年表（資料1）からわかるように、特に2008年から2017年の間に中国への輸出が多く、平均で毎年5.3冊のペースで出版されている。また、同じ時期より、児童雑誌と育児雑誌にも、新美南吉の作品がよく掲載されるようになる（資料2）。これらの事実から、新美南吉作品が21世紀から中国でよく読まれていることがわかる。

資料 1 2000 年以降、中国における新美南吉作品出版年表

出版年	中国語書名	出版社	形式	翻訳者	日本語名
2008	小狐狸买手套、花木村和盗贼们	贵州人民出版社	童话集	周龙梅，彭懿	手袋を買いに、花のき村と盗人たち
2009	小狐狸阿权	长春出版社	童话集	周龙梅，彭懿	ごん狐
2009	小狐狸买手套	贵州人民出版社	童话集	周龙梅，彭懿	手袋を買いに
2010	巨人和公主的眼泪	少年儿童出版社	童话集	朱自强	巨男の話
2010	去年的树	同心出版社	童话集	周龙梅，彭懿	去年の木
2010	小狐狸买手套	南海出版公司	絵本（黒井健）	周龙梅，彭懿	手袋を買いに
2011	去年的树、小狐狸买手套、花木村和盗贼们	新蕾出版社	絵本	寒木	去年の木、手袋を買いに、花のき村と盗人たち
2012	拴牛的山茶树	新星出版社	童话集	周龙梅，彭懿	牛のつないだ樁の木
2012	小狐狸阿权	新星出版社	絵本（黒井健）	周龙梅，彭懿	ごん狐
2012	爷爷的煤油灯	山西人民出版社	童话集	王新禧	おじいさんのランプ
2013	跟踪的蝴蝶、盗贼和小羊羔、两只小青蛙、螃蟹做生意、小和尚念经、小狐狸阿权	安徽少年儿童出版社	童话集	周龙梅，彭懿	ついていったちょうちょう、盗人とひつじ、二匹の蛙、蟹のしょうばい、こぞうさんのおきょう、ごん狐
2013	开花的树	天津人民出版社	童话集	张云燕	木の祭り
2014	去年的树	人民教育出版社	童话集	周龙梅，彭懿	去年の木
2014	螃蟹的生意	河北少年儿童出版社	絵本（山口マオ）	周龙梅，彭懿	蟹のしょうばい

2015	小狐狸阿权	二十一世纪出版社	絵本	王智英	ごん狐
2015	去年的树	北方联合出版传媒（集团）股份有限公司	童话集	朱芳芳	去年の木
2015	去年的树	吉林美术出版社	童话集	彭懿，周龙梅	去年の木
2015	小狐狸买手套	人民文学出版社	童话集	周龙梅，彭懿	手袋を買いに
2015	红蜡烛	希望出版社	絵本（铃木寿雄）	周龙梅	赤い蠟燭
2015	盗贼来到花木村	江苏美术出版社	絵本（钱海韵）		花のき村と盗人たち
2015	牧童和强盗	吉林出版集团有限责任公司	絵本	杨立田	花のき村と盗人たち
2016	小狐狸买手套	中国少年儿童新闻出版总社	絵本（吕秋梅）	周龙梅，彭懿	手袋を買いに
2016	影子、山里的春天、变成木屐、两只青蛙、树的庆典、小狐狸阿权、马厩旁的油菜花、蜗牛的悲伤	南海出版公司	絵本（铃木靖将）	史诗	かげ、里の春山の春、げたにばける、二ひきの蛙、木の祭り、ごん狐、うまやのそばのなたね、でんでんむしのかなしみ
2017	去年的树、小狐狸阿权	江苏凤凰科学技术出版社	童话集	彭懿，周龙梅	去年の木、ごん狐
2017	花木村和盗贼们、去年的树、小狐狸阿权	浙江少年儿童出版社	童话集	周龙梅，彭懿	花のき村と盗人たち、去年の木、ごん狐
2017	花木村和盗贼	济南出版社	童话集	一苇	花のき村と盗人たち
2017	去年的树	长江文艺出版社	童话集	朝颜	去年の木
2017	小狐狸阿权	安徽少年儿童出版社	童话集	叶荣鼎	ごん狐

2017	小狐狸阿权	四川少年儿童出版社	童话集		ごん狐
2017	小狐狸买手套	人民文学出版社	童话集	彭懿，周龙梅	手袋を買いに

資料2 2000年以降、中国における「手袋を買いに」の雑誌掲載年表  
 (2000年以降、新美南吉作品は中国の雑誌に61回掲載され、「手袋を買いに」16回、「去年の木」14回、「花のき村と盗人たち」6回、「でんでんむしのかなしみ」4回、「巨男の話」3回、「ごん狐」3回、「蟹のしょうばい」2回、「うた時計」2回、「赤い蠟燭」2回、「うまやのそばのなたね」、「おじさんのランプ」、「かぶと虫」、「花を埋める」、「牛のつないだ樅の木」、「木の祭り」、「尻」、「飴だま」、「子どもの好きな神様」はそれぞれ1回掲載された。)

掲載年	雑誌名	翻訳者	中国語タイトル	結末
2006	素质教育博览	記載なし	小狐狸买手套	ab
2009	文学少年	徐超	小狐狸买手套	a
2009	儿童时代	記載なし	小狐狸买手套	ab
2010	少年文艺	杜丽蓉	小狐狸买手套	ab
2010	天天爱学习	記載なし	小狐狸买手套	ab
2011	少先队小干部	杜丽蓉	小狐狸买手套	ab
2011	小溪流	流云之鹰	小狐狸买手套	abcdef
2011	世界儿童	李日月	买手套去	abcd
2011	小学生之友	記載なし	小狐狸买手套	ab
2011	广东第二课堂	彭懿、周龙梅	小狐狸买手套	abef
2012	课堂内外	杜丽蓉	小狐狸买手套	ab
2014	文苑	記載なし	小狐狸买手套	ab
2014	课外生活	記載なし	小狐狸买手套	abcx
2014	数学大王	記載なし	小狐狸买手套	ab
2015	阅读	杜丽蓉	小狐狸买手套	ab
2015	创新作文	杜丽蓉	小狐狸买手套	ab

このように新美南吉作品が中国で人気を博した理由は、主に三つあると考えられる。

一つ目は、新美南吉の「去年の木」という作品が人民教育出版社の小学校語文(国語)教科書に採用されていることである。人民教育出版社は中国建国後の1950年に設立した出版社で、「受当時の物质条件限制，中央只能集中力量扶持一家教育出版社（当時の物理的条件の制限で、中央は力を集中して一つの教育出版社を支えるしかなかった）」ため、「在相当一段时

期內，在国家中小学教材编写、审查、出版中占有主导地位（長い間、国家の中小学校教材の編纂、審査、出版において主導的な地位にあった）」、そして「到 1980 年代末，一直在中小学教材出版领域独占鳌头<sup>1</sup>（1980 年代末まで、ずっと中小校教材出版社領域のトップ位置を占めていた）」、「1986 年 4 月全国人大通过了《中华人民共和国义务教育法》。为了实施义务教育法，国家教委于同年拟定了《义务教育全日制小学、初级中学教学计划（试行草案）》，1988 年 9 月颁布了《九年制义务教育全日制小学语文教学大纲（初审稿）》，作为编写义务教育教材的依据。1992 年 6 月又颁布了教学大纲的试用版。这是共和国第一步义务教育小学语文教学大纲。<sup>2</sup>（1986 年 4 月全国人大で『中華人民共和國義務教育法』が通過した。義務教育法を実施するため、国家教委より同年『義務教育全日制小学、中学教学計画（試行草案）』が制定され、1988 年 9 月に『九年制義務教育全日制小学語文教学大綱（初審稿）』が頒布され、義務教育教材編纂の依拠となる。1992 年 6 月に教学大綱の試用版が頒布された。これが共和国第一歩の義務教育小学語文教学大綱となる。）」「同年 9 月，国家教委成立全国中小学教材审定委员会。从此，结束了建国以来统编教材的历史，把竞争机制引入教材建设，开启了“一纲多本”的时代<sup>3</sup>（同年 9 月、国家教育委員会が全国中小学校教材審定委員會を設立した。これにより、建国以来の統一編集教材の歴史が終わり、競争体制が教材制作に導入され、「一綱多本」が開かれた。）」。「一綱多本」というのは、一つの大綱に基づき、複数のバージョンの教材出版、使用が許可されるということである。しかし、人民教育出版社以外の出版社からの教材も許可されるようになったとはいえ、人民教育出版社の教材が「受到广大师生的好评，在全国有八九个版本送审通过的情况下，使用面仍占 90% 以上。<sup>4</sup>（教師たちと生徒たちの間では広く好評を受け、全国で八、

1 刘敬雅、范继忠「我国中小学教材出版研究综述——以语文教材为主」『北京印刷学院学报』2016 年 5 期、2016 年 10 月、22 頁。

2 崔峦「回顾·总结·展望——人民教育出版社五十年小学语文教材编写历程」『教程·教材·教法』2010 年 1 期、2010 年 1 月、54 頁。

3 同上。

4 同上。

九のバージョンが審査を通った状況の下でも、使用率は90%以上を占めている。)」

要するに、人民教育出版社の語文教材は中国では国民的な教材であり、長く広く読まれていて、大きな影響力を持っている。

「去年の木」は2000年から人民教育出版社の小学校四年（下）の語文教材に収録されている。そのため、教材との関連読書などで、子どもたちと教育者には新美南吉をもっと知りたい、新美南吉の他の作品も読みたいという欲求が出て来る。人民教育出版社自身からも、「人教版語文同期閱讀・課文作家作品系列（人教版語文同期閱讀・教科書テキスト作家作品シリーズ）」で、「去年の木」というタイトルで、新美南吉の童話集を出している。人民教育出版社ホームページの叢書紹介には、「这是一套根据语文教材中出现的名家选编的同步阅读，让小读者们走进作家，爱上阅读！（これが語文教材に出る名作家によって編集された同期読書シリーズであり、小さな読者たちを作家に近づかせ、読書好きにします！）」とあり、また「语文教材中选用了一些作家的作品，这些作家的作品受到学生的喜爱，也说明他们的创作质量达到了相当高度。“义务教育教科书语文同步阅读・课文作家作品系列”让学生学完课文后，延伸阅读该作家的其他文章，是拓展阅读面、了解作家作品的重要方式。（語文教科書では作家たちによる作品を採用しており、これらの作家たちの作品が生徒たちに好まれている。彼らの創作の質が相当の高さに来ていることをも示されている。「義務教育教科書語文同期閱讀・教科書テキスト作家作品シリーズ」は、生徒たちが教科書の文章を読んでから、その作家の他の文章を読み、読書の範囲が広され、作家の作品を知るための大事な方法である）」と説明する。この一冊では、「ごんぎつね」「手ぶくろを買いに」などの名作をはじめ、合わせて24篇の新美南吉短編童話が収録されている。作品が教材で使われるというのが子供の読者に親しまれるには一番の近道であり、新美南吉童話が中国で広く受容されているのも人民教育出版社教科書と深く関わっているといえよう。

二つ目の理由は、2000年以降、中国の児童書出版、特に絵本出版がブームを迎えたことである。例えば、児童書出版では、2000年にハリーポッターシリーズが中国で出版され、ベストセラーとなり、それ以降、絵本を

含む児童書出版部数は前年を上回り続けている。中国国際児童図書評議会元主席の海飛氏が2000年からの十年間を児童書出版の「黄金十年」と呼び、次のように説明している。「“黄金十年”的内涵界定，表现在儿童文学创作上，涌现出了一批优秀作家、优秀作品，涌现出了一批品牌作家、品牌作品，涌现出了一批畅销书作家、畅销书。…中略…曹文轩的《草房子》再版 300 次，“草房子”成了“金房子”；《青铜葵花》再版 150 多次。杨红樱的《笑猫日记》系列，出版 10 年，21 册，发行突破 3000 万册，销售码洋达 5 亿，连续 427 次位居全国童书销售排行榜前列，其中 25 次名列榜首。表现在童书出版上，童书出版从原来的专业出版演化为大众出版，全国 581 家出版社，有 520 多家出版童书；年出版童书 4 万多种，总量世界第一，其中，儿童文学图书 1.6 万多种；拥有 3.67 亿未成年人的巨大的童书市场，年总印数达 6 亿多册，在销品种 20 多万种，销售总额 100 多亿元人民币。<sup>5</sup>（「黄金十年」の定義に関してであるが、児童文学創作においては、多くの優れた作家、優れた作品が出現し、有名作家、有名作品、ベストセラー作家、ベストセラー作品が出現した。…中略…。曹文軒の『草房子』が300回再版し、「草」の屋敷は「黄金」の屋敷になった。『青铜葵花』は150回以上再版した。杨紅桜の『笑猫日記』シリーズは出版10年で、21冊出され、発行部数は3000万冊を突破し、売り上げが5億元に達し、連続で427回全国児童書ベストセラーに入っていて、その中の25回がトップだった。児童書出版においては、児童書の出版が元来の専門出版から大衆出版に変わり、全国の581の出版社のうち、520社以上が児童書を出している。児童書の年間出版部数は6億冊もあり、二十数万種の児童書が販売されていて、売り上げは100億元以上となっている。）」

また、児童文学研究者たちの積極的な宣伝で、「絵本」という児童書の形が中国で広く認識され、受け入れるようになっている。新美南吉の翻訳者でもある彭懿氏は「絵本」の普及に力を入れている一人である。彭懿氏が書いた「絵本」研究書『图画书 阅读与经典』は三つの版本（ハードカバー、ソフトカバー、文庫本）で出版されたが、半年で三万部売れるという児童

5 海飛「中国童书出版的大时代」『中国出版』2016年11期、2016年6月、12頁。

書関連の専門書販売の奇跡となった。

児童書出版ブーム、そして絵本ブームの中、外国の絵本がたくさん輸入されるようになる。「ごんぎつね」や「手ぶくろを買いに」などの新美南吉原作の絵本は日本の読者市場ですでにその人気さが実証されたため、当然中国の出版社編集者、経営者の視野に入り、絵本ブームに乗って中国市場に入ったのである。

三つ目の理由は、中国児童文学の三つ目の転形に伴い、読者の児童文学作品の多様化への需要が強くなり、その過程で、新美南吉作品が外国児童文学の「名作」として復旧されるということである。王泉根氏の研究によると、中国の児童文学は五四期、三十年代、そして新時代（八九十年代）の三つの転形を経て来たのである。王泉根氏が「五四前后鲁迅、周作人倡导的儿童本位的儿童文学观；二三十年代郑振铎、茅盾提出的儿童文学要帮助儿童认识社会、认识人生；六七十年代鲁兵、贺宜提出的儿童文学是教育儿童的文学；八九十年代以曹文轩为代表的一批年轻作家认为儿童文学关系到未来民族性格的塑造。（五四前後には鲁迅、周作人が児童本位の児童文学観を提唱し、二三十年代には鄭振鐸、茅盾が児童文学は児童の社会認識、人生認識の助けになると主張し、六七十年代には魯兵、賀宜より児童文学は児童を教育する文学を主張し、八九十年代には曹文軒をはじめとする若い作家たちは児童文学が未来の民族性格の形成に関わると主張する。）」<sup>6</sup>「进入八九十年代的儿童文学创作，可以说是异彩纷呈，旗号林立，风格各异。（八九十年代的児童文学創作は、多彩な色で輝い、それぞれ特色、作風があるといえる。）」<sup>7</sup>と述べているように、八九十年代以降中国の児童文学はそれまでのどの時代よりも多様な作品を期待していて、外国の優れた作品が中国に盛んに紹介される土壤ができるようになる。新美南吉は日本児童文学の代表的な作家でありながら、系統的に翻訳紹介されたことがなかったため、翻訳者や出版社には日本の児童文学を輸入するために、まず「名作」を復旧し、経典から読みだすような考えがあつて新美南

6 王泉根「児童観の转变与 20 世纪中国儿童文学的三次转型」『娄底师专学报』2003 年 01 期、2003 年 1 月、73 頁。

7 同上。



吉に注目したのではないだろうか。

また、資料3で示すように、新美南吉作品の翻訳出版が多くなるに従って、中国における研究も多くなって来た。文学研究者たちも新美南吉に関心を持つようになったことがわかる。

### 資料3

CNKI (中国學術情報データベース) で「新美南吉」をキーワードとして、「文献」(作品の雑誌掲載、学位論文、學術雑誌を全部含む) 検索する場合、566 件 (2000 年以降: 554 件) ヒットし、「期刊」(學術雑誌) 検索する場合 130 件 (2000 年以降: 117 件) ヒットした。(2017 年 11 月 22 日時点)

2014 年、新美南吉作品は中国国家図書館が編集した「全国少年儿童図書館基本蔵書目録」に紹介される。この目録は中国政府文化部の要求に応え、「各少年儿童図書館蔵書の参考とする」ために作られたもので、中国で初めての全国少年儿童図書館蔵書目録である。

当目録では、4913 部の児童書が推薦され、その中の 100 部に「图书导赏」という解説文がつけられ、特に推薦している。100 部の中、新美南吉原作の本が、唯一の日本人作家による童話集として採用されている。そこでは資料4のように新美南吉を解説している。

### 資料4

(拴牛的山茶树 新星出版社 2012) “小狐狸买手套”是新美南吉“小狐狸三部曲”的其中一篇。故事讲述了冻伤了手的小狐狸在妈妈的指导下独自到镇上买手套，虽然被老板发现了蹊跷，但小狐狸最终顺利地买到了手套。在小狐狸心里，从未见过的“人”可以成为友善和蔼的朋友，全文散发着浓浓的温情与爱的光芒，作品反映了作者对良善人性的希望和期待。(国家图书馆 全国少年儿童图书馆基本藏书目录 图书导赏)

筆者訳: 「手袋を買いに」は新美南吉によるきつね三部作の一つである。寒さで手が痛む子狐が母さん狐の指導を聞いて町へ手袋を買いに行く話で、帽子屋さんに怪しく思われるが、最後は無事に手袋を買うことができる。子狐の心の中では、会ったことのない「人間」も友好で親切な友達になれば、作品には深い温情と愛の光があり、作者の善良な人性に対する希望

と期待が反映されている。(国家図書館 全国少年儿童図書館基本蔵書目録図書導賞)

以上、新美南吉作品の2000年以降の中国における出版、掲載、研究、閲読の概況を紹介し、その作品が中国人に大変好まれていることを明らかにして来たが、中国人は一体どのような翻訳を読んでいるのかを、次の章で見よう。

## 2 中国雑誌における「手ぶくろを買いに」

### 資料5

- a 「森の子狐もお母さん狐のお唄をきいて、洞穴の中で眠ろうとしているのでしょうね。さあ坊やも早くねんねしなさい。森の子狐と坊やとどっちが早くねんねするか、きっと坊やの方が早くねんねしますよ。」
- b それをきくと子狐は急にお母さんが恋しくなって、お母さん狐の待っている方へ飛んで行きました。
- c お母さん狐は、心配しながら、坊やの狐の帰ってくるのを、今か今かとふるえながら待っていましたので、坊やがくると、暖かい胸に抱きしめて泣きたいほど喜びました。
- d 二匹の狐は森の方へ帰ってきました。月が出たので、狐の毛なみが銀色に光、その足あとには、コバルトの影がたまりました。
- e 「母ちゃん、人間ってちっとも恐くないや。」  
「どうして？」  
「坊、間違えて本当のお手々出しちゃったの。でも帽子屋さん、捕まえやすなかったもの。ちゃんとこんないい暖かい手袋くれたもの。」  
と言って手袋のはまった両手をパンパンやってみせました。
- f お母さん狐は「まあ！」とあきれましたが、「本当に人間はいいものかしら。本当に人間はいいものかしら。」とつぶやきました。
- x 小狐狸钻进妈妈怀里，说：“瞧，妈妈，我买到手套了，刚才发生的事我要慢慢讲给你听。”妈妈笑了……

筆者訳：子狐は母さん狐の胸に抱かれ、「ほら、お母ちゃん、手袋を買ってきた。さっきのことをゆっくり話してあげるよ。」と言った。母さん狐

は笑った……

資料5では、「手袋を買いに」の原文最後のところを、わかりやすいように abcdef の六つの部分に分けてみた。また資料3、雑誌掲載年表の一番右の列に、掲載される際、どの部分まで訳されているかを示している。例えば2006年のabというのは、その雑誌に載っている翻訳は、bのところで物語が終わり、cからの内容が翻訳されていないというのである。

このように整理してみてもわかったのは、ほとんどの場合、雑誌での翻訳は「それをきくと子狐は急にお母さんが恋しくなって、母さん狐の待っている方へ跳んで行きました。」というところで終わってしまう、ということである。つまり、最後「人間はいいものかしら」をめぐる狐親子の会話は翻訳されていない。

実は彭懿氏、周龍梅氏が翻訳した童話集は2008年に出版され、原作に忠実に最後まで訳した版本がある。彭懿氏と周龍梅氏は二人とも日本留学経験のある児童文学研究者である。彭懿氏は1989年から日本の東京学芸大学で留学し、ファンタジー文学について研究していた。彼は1994年に修士学位を取得し、中国に戻り、研究を続けながら、文学創作、日本文学翻訳の場でも活躍している。忠実に翻訳することには彼の留学経験や、研究上の主張にも関わっていると考えられる。

しかし2008年以降、彭懿氏、周龍梅氏によって翻訳される単行本が圧倒的に多いのにも関わらず、雑誌で紹介される際には、やはり母さん狐のつぶやきのところを回避する傾向が読み取れる。

具体的に見ると、2011年の「広東第二課堂」は2008年貴州人民出版社版の「小狐狸买手套（手ぶくろを買いに）」を掲載しているが、efのところが残され、cdが削除された。それは解説文を同じページに納めるためという編集者の意図だと推測できるかもしれないが、これと2011年小溪流に掲載されたものの二つだけが例外であり、他は全部意図的に不完全な翻訳をとったと言える。

中でも、2014年課外生活のものは改筆が大きく、削除だけでなく、翻訳者による加筆も見られる。資料2ではxで示したが、xの内容は資料5に付した。翻訳者による文章が作品の最後のところにつけられ、「母さん

狐は笑った」という一句で作品を終わらせる。ここの「笑った」というのは、心配していた子狐が無事に帰ってきた喜びにも読めるし、母さん狐が最初からそういう結果が予想できて、子狐の成長を見て嬉しく笑ったという意味にも読めるだろうが、多少原作の意味深いところを簡単にごまかしているように感じられる。

原作に忠実した訳本があるのにも関わらず、こうした改筆があるということから、中国の編集者たちの「手ぶくろを買いに」に対する理解が少し窺えるのではないだろうか。

ところで、この中国人が避ける会話の部分は、実は日本の研究者にとって、重要なところである。

例えば、西本鶏介氏が「最後に繰り返しされる「ほんとうににんげんは、いいものかしら、ほんとうににんげんは、いいものかしら」というかあさんぎつねの言葉が、読者への問いかけとなって強く心に残るのである。不信任しか持てない人間を欺こうとしながら、それが愛のしっぺ返しとなる意外性故の鮮やかな幕切れ、それこそが南吉の作家としての優れた特性である。」<sup>8</sup>と述べる。西田良子氏が「「手ぶくろをかいに」の最後にかあさんぎつねがつぶやく「ほんとうににんげんは、いいものかしら」という言葉通り、人間の外見と内面の違いに彼はこだわり続けていた。」<sup>9</sup>と述べる。そして佐藤通雅氏が「「ほんとうににんげんは、いいものかしら」なら、今まで抱いていた先入観にメスをあてて、自省にまで向かう心の動きがよく表現される。」<sup>10</sup>と述べる。

この意味深いつぶやきが中国語に訳される時に削除されると、物語には大きな変化が起こる。

佐藤通雅氏による作品への解説では次のように述べている。「「手ぶくろを買いに」の方でも、かあさんぎつねが人間に対して抱いていた恐怖心の晴れていく中に溶暗する。この橋渡しの役目をするのが子ぎつねの純真無

8 西本鶏介「南吉童話の特質 ―「手ぶくろを買いに」をめぐって」『西本鶏介児童文学論コレクション』ポプラ社、2012年、539頁。

9 西田良子「特集児童文学この100年」『国文学：解釈と鑑賞』1996年4月、58頁。

10 佐藤通雅『新美南吉童話論 自己放棄者の到達』アルス館、2000年、106頁。

垢な心だった。子ぎつねは疑うということを知らず、かあさんぎつねの忠告をも忘れて別の手を差し出したりするが、思わずほほえみたくなるほどのこの可憐さは抜群である。人間と動物という全く異質なものを、純粹さで溶解していくような、しかし決して完全に溶解することはない宿命的哀感をもおびた不思議な魅力がここにはある。」<sup>11</sup>

このように、日本では物語を、子ぎつねの冒険によって、人間ときつねとが互いに理解しはじめ、最後に母さんぎつねは自分の持っていた偏見を捨てるという話だ、と理解するのが主流である。つまり、資料6図aのように、狐親子の世界と人間の世界が対立し、母さん狐の人間に対する不信感と子狐の純粹さと好奇心がまた対比となり、そして子ぎつねの純真さによって母さんぎつねの不信感が解消するという二重の構造になる。

かあさんぎつねのつぶやきを削除すると、物語は子ぎつねの手が寒い、かあさんぎつねが手ぶくろを買ってやりたいというところで始まり、子ぎつねが冒険を終え、無事に帰ろうとするところで終わるようになる。後者の場合、図bのように、母さんぎつねの葛藤・心配と、子ぎつねの思慕・好奇心が対立になり、ストーリーの重心が、人間ときつねとの対立から、母さんぎつねの感情と子ぎつねの冒険との対立へ移る。

かあさんぎつね最後のつぶやきが無くなるから、その最初に人間に不信感を持ち、最後に不信感が解消するという原作にある「不信感」の軸も成立できなくなる。

例えば、原文の「お母さん狐は、心配しながら、坊やの狐の帰って来るのを、今か今かとふるえながら待っていましたので、坊やが来ると、暖あたたかい胸に抱きしめて泣きたいほどよろこびました。」という文章を図aを前提として読む場合と、図bを前提として読む場合が、含める意味も違って来る。前者の場合では、人間が怖いから、母さんぎつねの「心配する」ことが強調され、「ふるえながら待っていました」というところも、人間への不信感に対する描写として捉えられる。後者の場合、「坊やの狐の帰って来る」ことが強調され、「ふるえながら待っていました」というのが「暖あたたかい胸に抱きしめて泣きたいほどよろこびました。」にかかり、母

11 同上。

の愛に対する描写に読み取れる。

このように、原作にある二重の対立構造が単純化され、母さんぎつねと子ぎつねだけの物語となり、帽子屋の人や、子守唄の親子なども単なる冒険中に登場する要素に過ぎなく、人間ときつねとの対立が注目されないのである。「ほんとうににんげんはいいものかしら」という原作の結末より、子ぎつねが帰ろうとするところで終わる方が、読者たちは新美南吉の本来表現したい問いかけに気づかず、ただ「よかったね、無事に帰ってきたね」と言って終わるだろうし、佐藤通雅が読む「人間と動物という全く異質なものの中を、純粹さで溶解していくような、しかし決して完全に溶解することはない宿命的哀感をもおびた不思議な魅力」も消えただろう。

## 資料 6

図 a

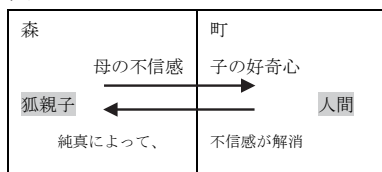
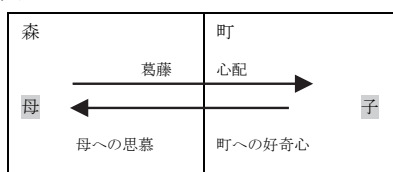


図 b



このように、「手ぶくろを買いに」が中国で受容される際に、日本留学経験のある児童文学者による忠実な翻訳版本があるのにもかかわらず、子ども向け雑誌や育児に関する雑誌での掲載では、最後の部分が削除された翻訳を採用する傾向があり、不完全な中国語訳では、物語が単純化され、原作にある「深さ」も薄くされたことがわかった。

## 3 「なぜ子ぎつねを一人で行かせたのか」について

「手ぶくろを買いに」は日本の国語教科書に載っている、新美南吉の代表作であるが、日本では良い評判ばかりでもなく、批判の声も多くあった。日本では2002年に一度全ての教科書から「手ぶくろを買いに」が消えてしまうという一年間もあり、その理由の一つには、自分が恐ろしくて足が進まない人間の町にどうして母ぎつねは可愛い子ぎつねを一人で行かせるのか、この点を児童が疑問に思うとそこで授業がつまずいてしまう、と教

育学者から指摘されたことである。<sup>12</sup>

七十年代には、西郷竹彦氏が「読者である子供たちにとって、不可解なのは、人間が「ほんとうに恐ろしいもの」であり、「どうしても足が進まない」のなら「仕方がない」から、「ぼうやだけを一人で町まで行かせる」のではなく、たかが手ぶくろぐらい、断念すればいいのではないか。自分自身「足はすくんで」一步も進めないほどの危険な場所になぜ、かわいい子ぎつねを「一人で町まで行かせることに」したのか。「仕方がないので」というが、なぜ「仕方がないのか」というわけである。」<sup>13</sup>と物語の不可解なところを指摘した。九十年代になると、西本鶏介氏によって「なるほど、足がすくんでしまうほどの恐ろしい人間のところへ、我が子を一人で行かせる母親の不可解な行為は、母親の非情さと取れなくもない。我が子に子守唄を歌いかける人間の声を聞いて、母親の優しさを思う子ぎつねの姿は南吉の幼い日と重ね合せることができるかもしれない。…中略…そもそも作品の解釈とは、あくまで恣意的なものである。強引すぎるストーリーであっても、そのことが却ってドラマチックな効果を生む場合もある」<sup>14</sup>と述べ、前述の不可解なところを「強引すぎるストーリー」と捉えつつ、積極的な評価をする。2000年以降、北吉郎氏が『「行かせることにしました」ではなく『なりました』の表現の奥には、その前後の文章や作品の愛情深い母親像を基に考えると当然そこに母親の「葛藤」があったであろうこと、そこから母子の間には何らかの話し合いのようなことがあって、そうしたことの結論が『そこで、仕方がないので、……なりました。』の表現になっているのではないか、とする読みが行われて支持を得ている。そうした深い読みが発見されることによって、この場面は「キズ」どころか、むしろ作品前半部における児童の読みを活性化させることに繋がる「やま」場——すなわち「ゆさぶり」をかけることで、授業に緊張感が生まれてくる場——とし

12 「南吉作品教材化の歴史」展示解説、新美南吉記念館、2016年。

13 西郷竹彦「「手ぶくろを買いに」論——矛盾はらむ母親像」『日本児童文学別冊 新美南吉童話の世界』1976年7月、146頁。

14 西本鶏介「南吉童話の特質——「手ぶくろを買いに」をめぐる」『西本鶏介児童文学論コレクション』ポプラ社、2012年、538-539頁。



て実践されている。」<sup>15</sup>と述べ、『なりました』という言葉から物語を再解読し、ストーリーの「キズ」が児童の読みを活性化することと繋がることを主張している。以上に羅列した日本における作品の否定的論でも、肯定的論で、一つ共通していることは、母さん狐が子狐を一人で行かせることに多少不可解を感じることである。

では、中国ではこの不可解なところはどうのように読まれているのだろう。中国の研究論文を調べると、次のような代表的な解読がある。

「其实，让小狐狸一个人去镇上这一点并不是不可以理解的。狐狸妈妈并不是不想去镇上，但因为惧怕人类所以“怎么也不敢往前走了”，但是天气十分寒冷，如果不买手套小狐狸的手会生冻疮的。狐狸妈妈不得已才让小狐狸独自一人前往。并且，狐狸妈妈将小狐狸的一只手变成了人手，并交给他应该怎么做，这样一来就应该万无一失了。所以，她让小狐狸一人前去。因此，狐狸妈妈是十分疼爱小狐狸的，在小狐狸去买手套的时候，“她焦急地盼着小狐狸早点回来，一看到小狐狸回来了，高兴地真想把它抱在温暖的怀里大哭一场”，这正是母亲对孩子牵挂的真实写照。《小狐狸买手套》虽然是围绕“买手套”这个故事展开的，但文中却流露出狐狸母子之间浓浓的母子情以及狐狸妈妈对小狐狸的疼爱之情。<sup>16</sup>（実は、子ぎつねを一人で街に行かせた点は不可解でもない。母さんぎつねは行きたくないわけではなく、人間が怖くて「どうしても足がすすまない」ためなのだ。しかし天気がとても寒くて、手ぶくろを買わないと子ぎつねの手が傷つくのである。母さんぎつねは仕方がなく小ぎつねを一人で行かせたのである。つまり、母さんぎつねは非常に子ぎつねを愛しているのであり、子ぎつねが買いに行っている時、「お母さん狐は、心配しながら、坊やの狐の帰って来るのを、今か今かとふるえながら待っていましたので、坊やが来ると、あたたかい胸に抱きしめて泣きたいほどよろこびました。」これが母親が子どもを心配する本当の様子に他ならない。『手ぶくろを買いに』は「手ぶくろを買うこと」をめぐる物語とはいえ、文章のところどころに狐親子の間の深い感情と母さんぎつねの子ぎつねに対する愛が溢れているのである。）」

15 北吉郎『新美南吉童話の本質と世界』双文社 2002 年、33 頁。

16 ト小恬「爱的渴求——以新美南吉的童话为中心」『现代语文』、2011 年 3 月、93 頁。



資料2では雑誌での掲載を整理したが、実は雑誌に掲載される際に、子供読者を指導する意図で、作品の隣に解説文を入れるケースが多いのである。「手袋を買いに」に対する解説文を資料7にまとめた。

#### 資料7

母爱总是无微不至的，但如果放手让孩子去尝试一下，也许他会收获更多。（2011 世界儿童）

筆者訳：母親の愛は全てに配慮しているのだが、手を離して子どもに試させてみれば、その子はずっと多くのものを得られるだろう。（2011 世界兒童）

的确，实践是检验真理的唯一标准。只有像小狐狸一样勇敢地尝试，才会知道事情的真相，百闻不如一见。在我们童年的脑海中，是否也有许多大人“灌输”给我们的理论呢？只有勇于实践探索，善于说“NO”，才能最终找到事物的真相，收获你的欢乐！（2011 广东第二课堂）

筆者訳：確かに、真理を検証する唯一の基準は実践である。子狐のように大胆に試さなければ、物事の真実がわからなく、百聞は一見にしかずの通りだ。私たちが幼い時も、大人から「教えられた」理論は少なくなかっただろう。大胆に探索し、「NO」と言えることこそ、真相を見つけ、楽しさを得る道だ。（2011 広東第二教室）

当孩子还在襁褓中的时候，爸爸妈妈常常喃喃自语：“小宝宝，你快快长大吧！”当孩子一天天长大，一天天嚷嚷着“我自己来”的时候，是不是父母的眼中又多了那么几许紧张和担心？紧紧握着孩子小手的时候，不曾想到，放手也是一种爱，而这种爱需要父母更大的勇气。（2010《爱吗？释手！》父母必读 方卿）

筆者訳：子どもがまだ幼児の時期、親はいつも「早く大きくなって」と独り言をいうが、子どもが成長していき、なんでも「自分でやりたい」という時期に、親の目の中にはまた緊張と心配が強くなるではないか。子どもの手をしっかり握っているとき、手を離すことも一種の愛であることを忘れていないか。そのような愛にはもっと勇気が必要なのだ。（2010「愛するか？手を離そう！」父母必读 方卿）

2011 年『世界児童』での掲載では「母親の愛は全てに配慮しているのだが、手を離して子どもに試させてみれば、その子はもっと多くのものを得られるだろう。」という風に解説している。ここからわかるのが、編集者の読みでは、かあさんぎつねは自分が怖いから子ぎつねを一人で行かせたのではなく、本当は一緒に行きたかったが、子ぎつねの為に、子ぎつねを成長させる為に一人で行かせたのだということである。2011 年、広東第二課堂の解説では、今度は子どもの角度から「真理を検証する唯一の基準は実践である。子狐のように大胆に試さなければ、物事の真実がわからない」と述べて、子どもが大胆に試みて行くことを励ましている。続いて 2010 年の『父母必読』という雑誌では、2010 年南海出版社版「手ぶくろを買いに」の絵本が推薦され、その紹介文ではかあさんぎつねが子ぎつねを一人で行かせたのを「手を放す愛」と解釈し、この愛には「もっと大きな勇気」が必要だと書いてある。

また、この作品を全文翻訳した周龍梅氏も、「要说“小狐狸三部曲”的最高杰作，应该非《小狐狸买手套》莫属了。这篇童话虽然着墨于生活在不同世界的动物与人的心灵沟通，但更感人的，却是通篇散发出来的一种爱的光芒。为了小狐狸的幸福，狐狸妈妈倾注了全部的母爱，而这一切正是新美南吉儿时最缺少的东西。<sup>17</sup>（「きつね三部作」の最高傑作は「手袋を買いに」にはかならない。この童話は違う世界に生きる動物と人間に心の交流を描いたが、もっと感動するのが作品の放つ愛の光である。子狐の幸せのために、母さん狐は全ての愛を注いだ。そしてそれが新美南吉の幼い頃欠けていたものである。）」と述べている。片手だけを変えたこと、子供を一人で行かせたのに「全ての母愛」とまとめるというのが日本の研究者の認識と矛盾するようであるが、おそらく周龍梅も多くの中国人読者と同じように、このように子ぎつねを成長させなければならない、「仕方がない」というのを変えられない現実、つまり前提としている。母さんぎつねが自分の手でやんわり子ぎつねの手を包むところや、母さんぎつねの震えて待っているところなどの描写から母親としての葛藤を読み取り、そのように述べた

17 周龍梅「日本童话作家新美南吉和他的作品」『中国儿童文学』2009 年 02 期、2009 年 9 月、57 頁。

のだろう。資料4の目録による紹介でも、「母さん狐の指導を聞いて町へ手袋を買いに行く」と書いて、母さんぎつねの心細さより「指導」ということを強調し、意図的に一人で行かせることで子ぎつねを成長させるという意味合いに読み取れる。

興味深いことに、日本人にとっては「不可解」なところこそ、中国人が注目して、逆にそこから「母愛」を感じ取れているようである。日本人にはそんなに危険なら買わなければいいじゃないかという手ぶくろが、中国人にとって、子ぎつねの成長に不可欠なものとなり、初めて一人で町に出ることも、子ぎつねには真実を求める為のとても大切な一歩とされるのである。

このような違う読みが出てくるのは、非常に多元的な原因が考えられる。社会背景から言うと、1979年から中国では人口抑制策として「一人っ子政策」を導入するのと80年代「改革開放」の時期が重ね、多くの富裕層で生まれた一人っ子が過保護される教育問題が出てきて、一時期話題になっていたことがある。

八十年代から、過保護問題のある児童たちは、「小皇帝（小さな王様）」「小公主（小さな姫様）」と呼ばれるようになる。この教育問題が2000年以降になってもよく公共の場で議論されている。例えば人民日报2007年10月11日第013版の、「重视挫折教育（挫折教育を重視しよう）」という文章では、「当今的孩子多“生长在温室”，受到众星捧月般的呵护；生活中家长唯恐孩子吃一点苦、受一点委屈。这些父母没意识到，挫折教育是孩子更为重要的需求之一。（今頃の子どもたちの多くが「温室の中で育つ」ため、たくさんの星に囲まれている月のように世話されている。生活の中、親たちは子どもが少しでも苦労しないように、不利にならないように必死に頑張っている。そのような親たちは、挫折教育が子どもにとってより切実な需要であることに気づいていない。）」<sup>18</sup>と呼びかけている。文汇报2002年07月29日第009版の「挫折教育不可少（挫折教育は欠けてはいけない）」という文章では、「由于现在的中小学生几乎都是家里的“独苗”，许多孩子在家里是衣来伸手，饭来张口，凡事由父母包办，造成许多孩子对挫折

18 陈春勇「重视挫折教育」『人民日报』2007年10月11日第013版。

的承受能力较差。(現在の小中学校の生徒たちがほとんど家族の「唯一の苗」がため、子どもたちはなんでも他人に依頼し、どんなことでも親たちがやってくれるのが習慣となり、挫折に遭った時の耐受性が欠ける。)<sup>19</sup>と述べている。

このような背景の下で、子ども向け雑誌や育児関係の雑誌では、積極的に「手を放す愛」を宣伝し、そういった教育問題を解決する方向に導こうとする意図が見られる。

もう一方では、「改革開放」により中国の経済が成長し、「都市化」もかつてないスピードで成長した。子どもを置いて出稼ぎにいく農民や、良い教育を受ける為に一人で都市に送られる子どもや少年も増え、何らかの「仕方がなさ」で子ぎつねと同じ境遇に置かれるケースが実は少なくない。「留守児童」問題も大きな社会問題になっている。「農村留守児童」というのは、「由于父母一方或双方外出打工而被留在农村，不能和父母生活在一起，需要其他亲人或委托人照顾的 17 周岁及以下的未成年人。(両親の中の一人あるいは二人が出稼ぎに行ったため農村に残され、両親と一緒に暮らせず、他の親戚あるいは代理人の世話が必要とする、17 歳以下の未成年者)」<sup>20</sup>のことである。中華全国婦女連合会が 2013 年に発表した「全国农村留守児童状況研究报告(全国農村留守児童状況研究報告)」によると、中国には 6102.55 万の農村留守児童がいて、農村児童の 37.7% を、全国児童数の 21.88% を占めている。2005 年の全国 1% サンプル調査の推算データと比べて、5 年間で約 242 万人の全国農村留守児童数が増えたのである。

農村にいる親よりも多くのところに行き、親が怖く感じるかもしれない都市にも行くことこそ、大きな成長であり、親としても成功のための教育と考える。そういった時代背景の中で、「手ぶくろを買いに」のプロットにおける日本人にとって不可解なところが、中国では自然に読み解かれ、そして中国で一種の「手を放す愛」とする読みが成り立ったのではないか。

テキストに立ち戻ってみれば、雑誌で掲載された「不完全」な翻訳も中国人の読解に大きな影響を与えている。

19 童其君、张志星「挫折教育不可少」『文汇报』2002 年 07 月 29 日第 009 版。

20 蒋笃运、「综合农村留守儿童教育问题与对策」『中国教育报』2008 年 7 月 19 日第 003 版。

すでに分析した通り、母さんぎつねのつぶやきの削除により、狐と人間の対立が目立たなくなる。そのため町の怖さ、母さんぎつねの抱いた人間に対する恐怖感も希薄化される。言い方を変えれば、それらはあくまでも「冒険」途中に必要な要素である。どうせ最後には全てを克服して無事に帰ってくるのなら、危険があってもいいのではないか、危険がなければ子ぎつねの冒険は成立しないなどの理解もあり得る。人間の親子の会話を聞いて、母さんぎつねのことが恋しくなって帰ろうとするところで物語が終わるから、読者は自然に狐親子の間の愛にも連想し、子ぎつねが帰って母ちゃんがどんなに喜ぶだろう、そして人間と同じように子ぎつねが母さんぎつねの揺す振り胸の中で眠るだろうと、想像するのではなかろうか。

母さんぎつねが愛と勇気を持って子ぎつねを町に行かせ、子ぎつねも勇気を持って町で冒険をし、成長して、最後に母さんぎつねのところへ戻ってくる。中国人読者は「手を離す母愛」を読み取り、新美南吉作品を受け入れたのである。そのような読みの中から、中国人の母愛に対する認識も、窺われるだろう。